



なつめ 7月号

(編集・発行)
鹿児島市立喜入小学校
(発行日)
令和3年7月19日



ヒマワリ (人権の花)
が大きくなりました

問題を明らかにすることも成果 ～1学期の評価から～

校長 内村 英人

1学期は、76日間でした。当初の計画どおりの授業日数を実施できて安堵しています。1学期間の教育活動に対する保護者や地域の皆様の御理解と御協力に心から感謝を申し上げます。さて、この1学期の自己評価を子どもたちにさせました。子どもの自己評価は、保護者の皆様からいただいた評価情報と同様に、教育活動を見直す上で貴重な情報です。評価項目は19個あり、子ども自身による評価は、18個が3点台で(4段階評価)、「授業の時、よく発表している」という項目だけが2点台でした。自由記述においては、30種類の意見や要望が書かれていました。なるほどと思う意見が多くありましたが、その中で、自分たち自身がどうありたいかという思いや願いを書いているものがありました。

「けんかをしたとき、できれば自分たちだけで解決したい。」

「先生も子どもたちも大きな声であいさつする！」

「思いやりをもって、いろいろな人と仲良くなしてほしい。」

これらを書いた子は、このような問題意識をもっているということでしょう。子どもならではの問題意識でしょうか。そうとばかりは言えませんね。大人の社会生活においても当てはまりますよね。自分たちの生活の中に問題を見出し、そして、それを表明し改善を願う子どもたちに、拍手を送りたい気持ちです。決して小さくはない成果だと思っています。もちろん、解決に向かわなければならないことは言うまでもありません。

「問題発見・解決力」は、本年度、本校が育成を目指す資質・能力の一つです。まず、問題に気付くことができなければなりません。解決に向けては、「多様性を尊重し協働する力」が必要です。その際、適切に議論するための「言語能力」も必要です。噂話や不確かな情報に振り回されない「情報活用能力」も必要です。これら四つの資質・能力をどのくらい育成できているのかを意識しながら、今後も教育活動の充実を図ってまいりたいと考えます。

保護者や地域の方々にも学校評価アンケートに御協力いただきありがとうございました。その集計結果の詳細は、8月号でお知らせします。

さて、夏休みが始まります。子どもたちには、普段よりは多い自由な時間の開放感を味わいつつ、学校での学びや家庭でのしつけを生かした生活をつくってもらいたいと考えます。

～夏休みだからこそその創造的な学びを～

かつて、こんな自由研究をした子どもがいました。タイトルは「トントン相撲の研究」

1年生の子どもの研究でした。折り紙で5種類の力士を作る。足の数、足の長さ、模様、武器の有無、身長等が違う力士を総当たり戦で戦わせて、その勝敗表をつくる。さて、最も強い力士の条件は何か？

～安全に健康な日々を～

水の事故や交通事故がありませんように。今年も”Withコロナ”の夏ですが、健康に過ごせますように。新しい生活様式を御家庭で再確認して、楽しい夏を過ごし、9月には全員が元気に学校に帰ってくることを願っております。

学校閉庁(8月13・14・15日)への御理解を

学校における働き方改革の取組として、夏季休業中の学校閉庁を実施しております。「学校閉庁により、計画的な休暇取得等を促進し、学校職員の健康の保持・増進、心身のリフレッシュを図る」というのが目的です。学校閉庁日となる3日間については、児童・生徒の登校及び部活動並びに事務室業務等は行いません。これに伴い、学校施設等の開放も原則として停止します。保護者・地域の皆様におかれましては、学校閉庁の目的等を御理解ください。

抵抗力を高めましょう (十分な睡眠 適度な運動 バランスのとれた食事)